

生活者にとっての「ウェルライフセミナー」



第一生命経済研究所 常務取締役

江崎 正志

2009年4月、当研究所は株式会社第一生命ウェルライフサポートと合併した。同社は健康・医療・介護分野に関する調査、研究、情報収集と、セミナーを中心とする情報発信を主な業務として、新たにライフデザイン研究本部ウェルライフ開発室としてスタートした。

ライフデザイン研究本部では、同室が加わり、生活者の視点からの経済・健康・教育・家族・心、いわゆる5Kといった調査研究領域において、健康、さらに介護分野で、より充実した調査・研究をすすめる態勢を整えることができた。情報発信についても、昨年度は「ウェルライフセミナー」を144回開催し、約13,300名の方々が参加され、大変好評をいただいた。

「ウェルライフセミナー」とは、保健師、ケアマネジャー、産業カウンセラー等の資格を持った社内の「専属講師」や医師等の「社外講師」が、全国の第一生命各支店で個人のお客さま向けに開催している健康・医療・介護に関するセミナーのことである。また「専属講師」による企業・団体の従業員の方々を対象にしたメンタルヘルス等のセミナーも「ウェルライフセミナー」と称している。

「ウェルライフセミナー」は、大きく分けて5種類、11編（テーマ）のプログラムで構成されている。①「生活習慣病や乳がんなどの疾病予防セミナー」（生活習慣見直し編～メタボリックシンドローム対策、女性のための乳がん予防編、女性のセルフケア編、心とからだのリフレッシュセミナー）、②「体力づくり・運動セミナー」（How to ウォーク編、からだ引き締め運動編～アイソメトリクス）、③「栄養・食生活セミナー」（ベジフル生活応援編）、④「メンタルヘルスセミナー（心の健康）」（一般従業員向け、管理職向け）、⑤「介護セミナー」（講義型、体験型）である。また、いくつかのプロ

グラムの組み合わせも可能である。

そもそも、「ウェルライフセミナー」を行っていた株式会社第一生命ウェルライフサポートは、1998年4月に介護・医療分野等に関する調査・研究、介護相談サービスの運営、介護セミナーの運営を業務範囲として、2000年の公的介護保険制度の導入に向けて事業を始めた。同社の設立趣旨は、「第一生命は創立95周年を機に、『生涯設計』を経営戦略のキーコンセプトと位置づけ、良質な提案、良質な商品、良質なサービスの一体的な提供に取り組んでいるが、生命保険業に密接であり、顧客が真に求めるサービス、すなわち健康・医療・老後（含む介護）分野のサービスを、中長期的な社会環境変化を踏まえた上で、開発・提供していく」ことであった。

当初、同社は介護サービス部と総務部の2部門であったが、翌年から訪問介護・居宅介護支援事業など現物介護サービスを開始し、介護事業部を設置した。セミナーも当初は「介護セミナー」だけであったが、2002年頃から健康をテーマにしたプログラムを順次開発するようになり、2003年4月には介護サービス部を介護・健康サービス部に改称した。これは、その後の2005年「労働安全衛生法」改正によるメンタルヘルス対策の促進、2006年「がん対策基本法」成立、翌年「がん対策推進基本計画」公表、2008年からのメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に直目した「特定検診」や「特定保健指導」の義務づけなど、一連の医療構造改革、医療保険制度改革により、お客さまの健康づくりへの関心が高まったことが背景にあった。

現在、ライフデザイン研究本部ではいろいろなセミナーを行っているが、「ウェルライフセミナー」の内容はお客さまにとって、例えば自分が将来、がんになったら、脳卒中になったら、心筋梗塞になったら、あるいは親が介護を必要とするようになったら、という時の心構えであり、予備知識である。そうなったら費用がいくら掛かり、その時のためにはこういう準備が必要で、という疑似体験であり、未来への備えでもある。セミナー・講習会で得た知識・情報がお客さまにとって無形の財産になっているはずである。

さて、今号の小谷主任研究員の「お墓のゆくえ」では、お墓に対する意識が多様化していることを明らかにしている。また北村副主任研究員の「家族形成と居住選択」では夫婦の労働・通勤時間や家族形態のみならず、保育サービスの利用しやすさや妻の親との近居などが居住選択の大きな要因となっていることを指摘している。二つの論文が示すように、これからの時代、一人ひとりの人生にとって重要なライフイベント、例えば住宅取得やお墓などへの考え方は、一段と「多様化」していくであろう。本誌が読者の方々のこれからのライフデザインを考える一助になれば幸いである。